

「津波への備え」江の島に設置

避難場所案内看板を指さす藤沢JIC松永理事長



この看板は外国人を含め年間800万人もの観光客が訪れる江ノ島に設置された。デザインは藤沢にある学校の中学生と高校生。

「この看板は外国人を含め年間800万人もの観光客が訪れる江ノ島に設置された。デザインは藤沢にある学校の中学生と高校生。」

「安全に観光を」と藤沢JIC

藤沢青年会議所（藤沢JIC）は江ノ島の玄関口にあたる観光案内所に津波発生時にすぐに逃げる事ができるように「避難場所の看板を設置した」写真。

看板のデザインでこだわったのは「誰もがわかる」こと。▽脅威を示すために津波を大きく描く▽展望台が高台にあるとわかるよう地図を立体的に示す▽避難経路を目立つよう赤と黄色の線で表現する「など工夫した。」

また、近年増加傾向にある外国人観光客の方でもわかるように英文の案内も入れた

この看板について観光



編集・発行
 ■（一社）藤沢青年会議所とゆかいな仲間たち（地元中高生）
 ■企画・制作タウンニュース

震度7で11.5mの津波

日ごろからの安全確認を

藤沢市の防災計画によると、相模トラフを震源とするマグニチュード8.7、県内震度7の地震が起きた場合、江ノ島にはおよそ12分後に11.5メートルの津波が到達するとされている。可能性として、江ノ島の低地は津波にのまれてしまうということが考えられるという。今回設置された看板で示されている赤い鳥居が海抜15メートル。そこまでたどりつければ、

津波は届かないということになる。しかし、時間にして12分は長くない。大きな地震の混乱も想定される。普段なら十二分に避難できるとしても、日ごろからの心構えと、遭遇した時にあわてないことが大切となる。

また、海岸や河口付近にいる場合は津波想定区域外や避難ビルを把握しておくことが大事。防災ナビなどで日ごろからの情報収集を。（別所）

客に聞いたところ、「とても避難場所が大きく示されていてわかりやすい」といった。

同青年会議所では、「近いうちに来るだろうといわれている大地震に備えて津波一時避難場所

今回の看板設置事業について松永理事長は「来年はここ江ノ島で五輪のセーリング競技が行われ、多くの外国人が訪れるだろう。彼らにも分かりやすく津波からの避難場所について伝えられようと思いい、看板を設置した」と語り、19日のイベントでは「外国人にも喜ばれるだろう」と折り紙形式の案内も配っていた。（池田）



外国人の方にもわかりやすく

藤沢JIC理事長 松永大希さん



観光案内をする子どもたち

英語で観光案内を体験

江の島で防災呼びかけ

（一社）藤沢青年会議所が主催する「みんなのミライ。みんなのトライ。お・も・て・な・し」が10月19日、江の島で行われた。市内の中学生ら約20人が参加。

「津波一時避難場所」と日本語と英語で書かれたヨット型の折り紙を観光客に配布し、「津波が来た時は高いところまで避難を」と呼びかけた。

当日は江島神社の歴史



（一社）藤沢青年会議所
 青少年共育実践委員会・青少年体験学習事業
 実行委員長 村瀬敦子

参加した子どもたちは「最初は自分から話しかけるのが恥ずかしかった」「思っていたことが伝わって楽しかった」と話していた。

また同日、藤沢学園の中高生ら7人が新聞記者として参加。写真の撮り方や話の引き出し方など、試行錯誤しながら取り組んでいた。

や災害発生時の行動について講義や市観光協会から外国人観光客の国別ランキングの発表も行われた。出発前、「ようこそ江の島へ」や「良い一日を」など簡単な英語を全員で練習。ふじきゅんを頭に付け、班ごとに江の島観光案内所周辺へ移動し、声かけを行った。最初はうまく声がかからない子どもも多かったが、次第に「Where are you from?」など自ら声をかける姿がみられた。

防災看板制作、観光客への案内、新聞記者体験の三本柱で実施した今回の事業。最大の狙いは、地域の未来を担う子どもたちに、観光客の防災という他人事を自分事としてもらうことです。折しも、台風の襲来で各地に大きな被害が発生した直後の開催となりました。最後にこの場をお借りして、多大なご協力をいただいた関係各所の皆様に心よりの感謝を申し上げます。

子どもたちの学びを提供

松永理事長「青少年育成事業」を語る

藤沢青年会議所では「青少年育成事業」と題して年に3回、スポーツマンシップを教えるためのサッカー大会や食育のためのアジの解体といった子ども向けのイベント



外国人に話しかけることで、将来ボランティアや観光事業に参加しやすくなるのでは」と子どもたちを巻き込んだイベントの必要性を語った。(池田)

ハザードマップ看板設置

藤沢青年会議所が江の島に

観光案内の安全確認を目的とした江ノ島ハザードマップが10月19日、同島観光案内所に設置された。設置したのは藤沢青年会議所。



看板を指し示す村瀬さん

看板には、江ノ島に津波が来た時の一時避難所が分かりやすく示されている。また、子どもでも見やすいように低い位置を選んだ。青年会議所の村瀬さんは「黄色で目立つようにしました」と話す。マップを見た観光客は「イラストで示されていて分かりやすい」と話していた。村瀬さんは「多くの人に見て貰い、万が一に備えてほしい」と訴えていた。(樫山)

楽しむ前に万が一の備えを

津波避難ビルの確認が大切

万が一江ノ島で津波が起きた時のことを10月19日に聞いてきた。話してくれたのは藤沢市役所危機管理課の職員。「東日本大震災のような津波が江ノ島を襲った場合、江ノ島はたった十分で飲み



ここの津波避難ビルは被害にあう可能性のある人がすぐに避難することのできるものだ。「観光を楽しむ前に場所の確認を」と注意を呼び掛けた。津波の恐ろしさを想定しておくことが大切だ。(井上晴)

多言語マップでおもてなし

7か国対応 江の島紹介

2020年に東京オリンピック競技のセーリング競技が江ノ島で行われる。これを契機に、今まで以上に外国人観光客が増えることは想像に難くない。江ノ島観光案内



江の島のイラストマップが国語に対応する

所では、すでに外国語対応のマップを完成させている。対応する言語は7か国。イラストを中心にわかりやすさを意識した作りとなっている。江ノ島を訪れる様々な外国人に向けて、「心から楽しんで欲しい」という「おもてなし」の心にあふれたマップだ。2020年以降も、世界中の人達が楽しめる江ノ島に向けて、取り組みを充実させるぞうだ。(別所)

訪日観光客向け看板設置

避難場所イラストで示す

江ノ島付近で大きな地震が起こると、同島には約10分ぐらいで津波が来る。しかし、この事実を知らない観光客が多い。そこで藤沢青年会議所



では、大地震が起きても外国人観光客が避難できるように、案内看板を設置したII写真。その看板は江ノ島全体の絵に避難場所が描かれたもの。看板を見た人は、「全体が目立ち、津波のマークもあり、文字を見なくても分かるので外国の方たちも伝わると思っています」と話していた。(荒嶋)

折り紙避難所マップを配布

外国人へ「英語通じた！」

市内の小学生約千人が、ハザードマップの入った折り紙を十月十九



配布する折り紙を準備する参加者ら

これは藤沢青年会議所が、江ノ島を訪れる外国人により安全に観光を楽しんでもらおうと企画。子どもたちによる配布は異文化交流を体感してほしいという意図がある。参加した子どもたちは「最初は怖かったがちゃんと通じてよかった」と話した。(井上晃)



「江ノ島を安全に楽しんで！」

外国人観光客に折り紙避難所マップを配布した子どもたちと藤沢青年会議所メンバー

ミライ・トライ・おもてなし新聞

中高生取材記者紹介



ミライ・トライ・おもてなし新聞の取材や記事を書いた中高生記者。左上から藤沢学園藤沢高校・別所晃旗さん(2年)、鈴木柊一朗さん(2年)、池田和樹さん(2年)、相模向陽館高校・狩野愛美さん(2年)、下左から藤沢学園藤沢中学校・荒嶋航成さん(2年)、井上晃喜さん(2年)、樫山翔太さん(2年)、井上晴道さん(2年)